東京 2020 大会に向けたボランティア戦略について

○ **募集や研修などの運営のあり方、参加者の裾野拡大等について基本的な考え方を示すもの**

1　東京 2020 大会のボランティア

(1)一体的なボランティア運営

・組織委員会と都は、**戦略を一体的に作成・公表**
・募集、研修などの運営、大会後に向けた取り組みについて可能な限り連携
・**本戦略を基に都以外の会場を有する自治体とも連携**に向けた取り組み検討

(2)ボランティア 9 万人以上が活躍

＜大会ボランティア＞（組織委員会が担当）
競技会場、選手村などの大会関係施設において、会場内の観客の案内・誘導、受付業務、競技運営のサポート等、直接大会運営に携わる
＜都市ボランティア＞（東京都が担当）
空港や主要駅、主要観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光交通案内、競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等を行う

(3)東京2020大会においてボランティアが果たす役割

・日本人の強みである**「おもてなしの心」や「責任感」**を活かして行動
・自らの役割を**心から楽しんで活動に参加し、大会全体の雰囲気の盛り上げ**

2　戦略の主な内容

(1)関係自治体等との連携

ア　競技会場を有する自治体との連携
・都市ボランティアユニフォーム・活動拠点装飾等の統一的デザイン検討
・接遇や大会情報などの**研修を一部共有化**

イ　全国自治体・地域（団体、交通事業者等）との連携

ウ　ラグビーワールドカップ 2019 との連携
・都市ボランティアの募集を平成 29 年度に一部前倒して実施し、ラグビーワールドカップ 2019 での経験を大会に繋げる

エ　企業等との連携
・スポンサー企業や各団体等とも連携し、働く世代の積極的な参加促進を呼びかけ

(2)多様な参加者の活動促進

ア　障がい者
・募集、研修、配置等、それぞれのプロセスにおける環境整備に取組む

イ　児童・生徒
・次世代を担う若い世代が大会運営を体験できる場を検討
＜小学生＞都内の**小学生**が都市ボランティアへ活動を体験できる仕組みを検討
＜中学生・高校生＞被災地を含む**中学生・高校生**のボランティア参加を検討
＜大学生＞試験日程の配慮の働きかけ等、**大学生**がボランティア活動へ参加しやすい取組を検討

ウ　働く世代・子育て世代
・**ボランティア休暇**の整備・取得促進
・子育て世代も参加しやすい環境の検討

(3)募集

＜応募条件検討の方向性＞
・平成 32（2020）年 4 月 1 日時点で**満 18 歳以上**の方
・ボランティア**研修に参加可能**な方
・日本国籍を有する方又は日本に滞在する資格を有する方（大会ボランティア）
日本国籍を有する方又は日本に居住する資格を有する方（都市ボランティア）
・**10 日**（大会ボランティア）／**5 日**（都市ボランティア）以上活動できる方
・東京 2020 大会の成功に向けて、**情熱を持って最後まで役割を全う**できる方
・お互いを思いやる心を持ち**チームとして活動したい**方

(4)研修等

・組織委員会と都が連携し、**共通的な研修**（接遇、大会概要など）を実施
・**個別の研修**（リーダーシップ研修、役割別研修、会場別研修　など）を実施

(5)参加気運の醸成・裾野拡大

・シンポジウムの開催や SNS 等様々なツールを通じて、ボランティアの**魅力を発信**
・今後、ネーミングやミッション等を策定

(6)大会後のレガシー

・関係機関と連携し、大会後もボランティアとして活躍できる仕組みを構築

3　スケジュール

平成 30（2018）年夏ごろ：**募集開始**

[別紙5]